中務内侍日記

伊地知文庫
文庫20
410

文庫20
410

後伏見天皇
石清水御願書
賀茂社御願書
御子左勝修古今集跋
後醍醐天皇
名和長年ふみ
宗良親王
李花集の内
千首和歌跋
源氏詮
すみよし詣

辛亥三桂花月
紫陰軒主誌

伊地知氏書册

中務内侍日記

それ日吉山王

二月廿七日　くもりの行まかりとまりの内侍かなと申侍し

三月廿日　雨もよほすくもりにて

秋をおくるくもりの日かずにも

物思ふ人のつれづれとながめ

嵐やおろすらんとおもふ

こう、八重もまだやまずすくうの花の

八日　晴

廿日　雨

かねてより

下し舞人ともよりなどもあるべし

四月一日　晴

三月尽の禊服の御祓などし侍し

なごりまでの日の入まで

二月廿七日　くもりの行まかりとまりの内侍かなと申侍し

三月廿日　雨もよほすくもりにて

秋をおくるくもりの日かずにも

物思ふ人のつれづれとながめ

嵐やおろすらんとおもふ

こう、八重もまだやまずすくうの花の

八日　晴

廿日　雨

かねてより

下し舞人ともよりなどもあるべし

四月一日　晴

三月尽の禊服の御祓などし侍し

なごりまでの日の入まで

賀陳杜仲預書

後伏見天皇

御十二 勅撰 古今集 後伏見天皇

元亨二年二月二十四日 仲秋月 花 古今集 撰 勅撰 古今集 撰 勅撰 古今集 撰 勅撰

又

駿河国貞長ゟ鳥良親王へ之状写

又

又

又

千首和歌跋

宗良親王

春宮乃御歌

関白

すみよし指

源義詮

貞治三年卯月七旬の比ほひ津の国へくだりけるに道
より舟にてくるの河面のけしきもおもしろくて
ちはやぶる春の山ぎはうすがすみ霞のうちに
みえつつ見山ときこうすがすみとかきて
かすとよむ
いそ松たてるをきてをつくりめき
山陰たつる寺田をの里とをちこちに舟とめ
さすさなえとるおもしろき比なり日もはや
きて夜にいりぬ
かすもおぼろ月とともにうかれ出て

敷島をくに社も名物とこそきゝつれ今ぞまのあたり
なるの跡をくまなくあゆみありきて人丸もくちん
ことをおもふ

そもそもからくにもやまとにもすぐれたる
きよくおもしろき津まおほきなれども和歌
にはよをひらくはじめ玉ふ津の国とぞ
ふるよをかさねてもあかぬ浦のけしきを
おもひつゞけてふねにのりぬ
みの浦の小みといふところ
きくしまの浦をこぎゆくとてよめる
生まつのまつもくれゆくうらの夕なぎ
おもふ事のつきせぬ浦もさやけき
夏の夜の月のうつれる水もまた清きやどの
夏衣